

O&O software

O&O AutoBackup 8

目次

1 はじめに 4

2 最初の手順 7

2.1 機能の概要 7

2.2 O&O AutoBackup、O&O DiskImage、OneDrive の使い分け 9

2.3 システム要件 12

2.4 インストールとライセンス認証 13

2.5 初めてのバックアップ 14

3 ファイルのバックアップ 16

3.1 バックアップの作成と編集 16

3.2 バックアップ元と保存先 18

3.3 OneDriveをオフラインバックアップで保護する 21

3.4 スケジュールと自動保護 24

3.5 バージョン履歴と保持期間 26

3.6 暗号化と回復キー 29

3.7 バックアップの実行と監視 31

4 同期 32

4.1 同期の仕組み 32

4.2 各同期モードの詳細 34

4.3 削除と競合を安全に扱う 36

5 復元 38

5.1 ファイルを復元 38

5.2 暗号化されたバックアップを復元する 41

5.3 バックアップを検索する 43

5.4 ポータブル復元アプリ 44

6 O&O AutoBackup の管理 45

6.1 バックアップペア 45

6.2 設定 46

6.3 ログと通知 48

6.4 ライセンスと更新 49

7 リファレンス 50

7.1 バックアップ形式 50

7.2 プライバシーとセキュリティ 52
7.3 用語集 53
8 トラブルシューティング 55
9 よくある質問 57
10 O&O のサポートと関連製品 60

はじめに

O&O AutoBackup をお選びいただきありがとうございます。本書では、大切なファイルを保護し、以前の版を残し、必要なときに復元する方法を説明します。

大切なものを守る

家族の写真にはかけがえのない思い出が残っています。個人の文書、学校の課題、財務記録、創作物には何年もの作業が積み重なっていることがあります。失えば作り直せないファイルも少なくありません。

O&O AutoBackup は、選んだフォルダーを独立した保存先にコピーし、過去の版も保持します。元のファイルを削除、破損、上書きしても、問題が起きる前のコピーを取り出せます。暗号化しなければ通常のファイルとフォルダーのままなので、独自のアーカイブ形式に依存せず開けます。

バックアップが必要な理由

PC が正常に見えても、次のような理由でデータが失われることがあります。

- **操作ミス**。ファイルやフォルダーを誤って削除する、別の名前で保存する、意図しない版で上書きすることがあります。
- **システムやハードウェアの障害**。ドライブの故障、Windows の更新失敗、ファイルシステムのエラー、PC の破損により、ファイル自体は無傷でも開けなくなる場合があります。
- **マルウェアによる攻撃**。ランサムウェアなどは、短時間に大量のファイルを暗号化、改変、削除することがあります。バックアップドライブを切り離しておけば、被害を受けた PC から隔離できます。
- **クラウド同期**。OneDrive などは端末間で変更を同期します。便利な一方、誤削除やファイルの破損、悪意のある変更まで同期される場合があります。

クラウドドライブだけでは独立したバックアップとはいえません。データは他社の設備上にあり、取り出せるかどうかはサービス、アカウント、その時点で使える復元機能に左右されます。ごみ箱や版の履歴があっても、すべてのファイルや必要な版をいつでも復元できる保証はありません。OneDrive フォルダーのオフラインコピーを別に持てば、自分で管理できる復元手段が増えます。

初めてでも続けられる保護

O&O AutoBackup の使用にバックアップの経験は必要ありません。複数の人が大切なファイルを作る家庭の PC でも、全員が複雑な手順を覚えなくて済みます。

外付け USB ドライブを使い、接続時にバックアップを実行する方法を例に説明します。

1. 写真、文書、その他の大切なファイルを含むフォルダーを選びます。
2. 外付けドライブを保存先に選び、接続時の自動バックアップを有効にします。
3. 定期的にドライブを接続します。O&O AutoBackup が認識し、新規・変更ファイルをコピーして履歴を自動更新します。
4. 完了後は取り外して安全な場所に保管します。PC 上のマルウェアがバックアップにアクセスしにくくなります。

設定後に繰り返し必要な操作は、ドライブの接続だけです。ファイルの比較、コピー、版の管理は自動で行われます。PC の故障、誤削除、マルウェアから、家族の思い出や重要な文書を守れます。

O&O AutoBackup の主な機能

- **自動ファイル保護**。継続的、15分ごと、毎時、毎日、毎週、毎月、またはバックアップドライブの接続時に実行できます。
- **バージョン履歴**。保持設定に従って以前のコピーを残し、条件を過ぎた版を自動で削除します。
- **自分で選べる保存先**。別の内蔵ディスク、USB ストレージ、ネットワーク共有、WebDAV、S3 互換ストレージを使えます。
- **必要に応じた暗号化**。認証付き暗号でファイル内容を保護し、必要に応じてファイル名とフォルダー名も保護できます。パスワードを使えない場合のために回復キーがあります。
- **複数の復元方法**。指定時点の内容を参照する、複数のバックアップから検索する、保存先の復元アプリを起動する方法があります。
- **バックアップと同期**。履歴付きのバックアップを作成するか、2つのフォルダーの内容をそろえます。

初めての方向けの基本用語

バックアップでは次の2つの場所を指定します。

- **コピー元**は、元のファイルが現在ある場所です。
- **保存先**は、保護用のコピーを書き込む独立したストレージです。

両方が同じ物理ディスクにあると、故障で同時に失われるおそれがあります。USB ドライブ、別の物理ディスク、NAS、別に管理するリモートストレージなどを保存先に選んでください。

初回は現在のデータをコピーします。次回以降は新規・変更ファイルを検出するため通常は短時間で済みます。以前の版は保持条件の範囲で利用できます。保存先が一時的に見つからなければ待機し、再び接続したときに未処理の変更を反映します。

ライセンスとバックアップファイルへのアクセス

O&O AutoBackup は**市販製品**です。試用期間中は評価できます。期間終了後の利用には有効なライセンスが必要です。

ライセンスはソフトウェアの使用権に適用されます。暗号化していないバックアップファイルへのアクセスは制限しません。バックアップと一緒にポータブル復元アプリを保存することもできます。ライセンスと更新 を参照してください。

複数の方法で保護する

O&O AutoBackup はファイルを保護し、O&O DiskImage は Windows システム全体を保護し、OneDrive は現在の作業ファイルを同期します。それぞれの役割を生かして、毎時のファイルバックアップ、定期的なシステムイメージ、クラウド同期を併用できます。O&O AutoBackup、O&O DiskImage、OneDrive の使い分け を参照してください。

次のステップ

用語に不慣れな方は 機能の概要 と 初めてのバックアップ からお読みください。今すぐファイルが必要な方は ファイルの復元 に進んでください。

> **ファイルバックアップとシステムイメージの違い**
>
> O&O AutoBackup はファイルとフォルダーを保護します。Windows、インストール済みアプリ、パーティションを含む起動可能なイメージは作成しません。PC 全体を復旧するには、ファイルバックアップに加えて O&O DiskImage などのイメージ作成ソフトを利用してください。

機能の概要

ホームでは、**ファイルが保護されているか、前回いつバックアップしたか**をひと目で確認できます。よく使う操作を開始できるほか、保護対象、保存先、次の実行予定、ドライブの接続や判断が必要な項目も表示されます。

初めて使用する方は、次の4つの操作を順に考えてみてください。

1. **選ぶ**。大切なファイルやフォルダーを選択します。
2. **コピーする**。元のデータから独立した保存先にコピーします。
3. **履歴を残す**。現在のコピーに加え、以前の状態も保持します。
4. **取り戻す**。必要なときにフォルダー全体、1つのファイル、またはその古い版を復元します。

バックアップと同期の種類

自分のファイルをバックアップ は最短で設定できる方法です。よく使う個人フォルダーを選ぶだけでバージョン履歴を作成し、既定では毎時自動で実行します。初めに詳細設定をすべて確認せずに必要な選択を済ませられるため、ほとんどの方に適しています。

カスタムのバックアップまたは同期を作成 では任意のコピー元、保存先、保持上限、暗号化、スケジュールを設定できます。変更を一方向にコピーし、復元可能な版を保持します。Windows の標準場所以外にあるプロジェクト、複数のコピー元をまとめる場合、特別な設定が必要な保存先に適しています。

同期 は2つの場所の内容をそろえます。選択したモードに応じて変更が一方向または双方向に伝わり、削除も反映される場合があります。作業用コピーには便利ですが、バージョン管理付きバックアップに代わるものではありません。同期の仕組み を参照してください。

バックアップ中の処理

初めにコピー元をスキャンし、新規、変更、移動、削除された項目を検出します。その結果と記録済みの状態を比較し、転送計画を作成します。必要なデータだけを転送するため、通常、2回目以降は初回より短時間で終わります。

他のアプリがファイルを排他的に開いている、保存先に接続できない、OneDrive のオンライン専用ファイルを取得できないといった場合は、その状況が報告されます。未完了の処理が緑色の成功表示になることはありません。条件が整った次の実行時に未処理の項目をコピーできます。

利用状況に合わせた実行

スケジュールは、サインインして O&O AutoBackup が通知領域で動作している間に実行されます。予定を逃した場合は後から実行します。リムーバブルドライブがないときは待機し、正しいドライブを接続すると続行します。ノート PC でも決まった時刻を覚えておく必要がなく、都合のよいときに接続できます。

O&O AutoBackup は保存先ボリュームを識別します。Windows がリムーバブルドライブの文字を割り当て直し、別のディスクが同じ文字になっても、バックアップ先とは認識されません。

バッテリー駆動中、従量制課金接続の使用中、ユーザーの作業中は処理を待機させられます。**設定 → 自動起動** で動作を指定します。延期した処理は保留され、条件を満たした時点で始まります。

復元方法

復元画面には、指定した時点に存在したファイルが表示されます。すべてを復元することも、必要な項目だけを選ぶこともできます。フォルダーを覚えていない場合は検索してください。オプションで保存先に復元アプリをコピーしておくと、元の環境をセットアップし直さずに、別の対応 PC からバックアップを開けます。

暗号化していないバックアップの現行ファイルはエクスプローラーでも直接開けます。暗号化したバックアップを開くには、パスワードか回復キーでロックを解除してください。暗号化されたバックアップを復元する を参照してください。

通常のファイルとして保存する理由

暗号化しないデータは、単一の圧縮アーカイブではなく通常のファイルとして保存します。**圧縮しないのは設計上の選択です**。独自のコンテナーで容量を節約するよりも、内容を直接確認でき、長期にわたり復元できることを重視しています。必要に応じて版管理や暗号化の仕組みが加わります。バックアップ形式 を参照してください。

保護範囲に含まれないもの

- システムイメージではないため、Windows やインストール済みアプリの再構築には使えません。
- マルウェア対策ソフトではありません。ファイルをコピーしますが、その安全性は判定しません。
- 同期では意図しない変更も伝わるため、同期だけでバックアップになるとは限りません。
- OneDrive で同期しても、そのデータの独立したオフラインコピーは作成されません。

保護手段の組み合わせについては、O&O AutoBackup、O&O DiskImage、OneDrive の使い分け を参照してください。

O&O AutoBackup、O&O DiskImage、OneDrive の使い分け

O&O AutoBackup は、日々更新する文書、写真、プロジェクトを短い間隔でバックアップし、**クラウド同期とシステム全体のイメージ作成の間を補います**。3つの技術にはそれぞれ異なる役割があり、組み合わせるとさまざまな障害に備えられます。

目的に合わせて選ぶ

ツール	解決したいこと	実行頻度の例	得意な用途
O&O AutoBackup	ファイルやその昨日の版をすぐに取り戻したい	毎時または継続的	個人ファイルの保護、版の管理、必要な項目だけの復元
O&O DiskImage	ディスクや Windows の障害後に PC 全体を復旧したい	毎月および大きな変更の前	Windows、インストール済みのアプリ、設定、パーティション、ディスク全体の復元
OneDrive	他の端末からも最新の作業ファイルを使いたい	継続的に同期	複数端末からのアクセス、共同作業、共有、外出先での利用

スケジュールの目安は次のとおりです。

> **イメージは毎月、ファイルバックアップは毎時、同期は継続的に。**

この間隔は一例です。重要な業務に使う PC ならイメージをより頻繁に作成し、構成がほとんど変わらない家庭の PC なら間隔を長くできます。変更の少ないシステムと、一日に何度も変わる個人ファイルは、必要に応じて異なる間隔で保護してください。

O&O AutoBackup が保護するもの

主な対象は、ドキュメント、デスクトップ、ピクチャ、プロジェクトフォルダー、ローカルのアーカイブなどのユーザーデータです。選択すれば OneDrive のファイルも含められます。新規・変更ファイルをコピーし、古い版も保持するため、PC 全体を以前の状態に戻さずに1つのファイルだけを復元できます。

次のような場合に適しています。

- 今朝プレゼンテーションを上書きしてしまい、昨日の版が必要になった。
- 誤ってフォルダーを削除した。
- OneDrive のファイルのオフラインコピーが欲しい。
- USB ドライブを接続したときに、未反映の変更を自動でバックアップしたい。
- 暗号化しないバックアップは通常のファイルのまま直接読みたい。

O&O AutoBackup では、Windows、インストール済みプログラム、ブート情報、破損したパーティション構成を**再構築できません**。ディスク全体が故障した場合は、先に Windows とアプリを再インストールしてからファイルを復元するか、ディスクイメージを使用します。

O&O DiskImage が保護するもの

O&O DiskImage はドライブまたはパーティション全体をイメージ化します。システムイメージには、ファイルバックアップの対象外である Windows 自体、インストール済みアプリ、デバイス構成、レジストリ、ブートデータ、対象ボリュームの配置が含まれます。

次のような場合に適しています。

- システムディスクが故障し、交換ディスクから再び起動できるようにしたい。
- Windows の更新やドライバーが原因でシステムが破損した。
- **PC 全体**を動作確認済みの状態に戻したい。
- すべてのアプリをインストールし直して設定するには数時間、場合によっては数日かかる。

イメージは広い範囲を復旧できますが、通常、増分ファイルバックアップより大きく、作成にも時間がかかります。古いイメージを復元すると、対象システム全体がその時点に戻ります。表計算ファイルを1つ取り戻すだけなら、個別に復元する方が適切です。

2つの製品を併用する例

毎月1日にシステムイメージを作成し、ファイルは現在まで毎時バックアップしているとします。

1. 24日に SSD が故障しました。
2. 交換用 SSD に、O&O DiskImage で作成した月初のイメージを復元します。Windows、アプリ、設定がまとめて戻ります。
3. 続いて O&O AutoBackup からファイルの最新版を復元します。システム全体をすばやく復旧しつつ、イメージ作成後に編集した文書も取り戻せます。

O&O DiskImage は**使える状態の PC**を、O&O AutoBackup は**最新の作業内容**を取り戻すまでの時間を短縮します。

OneDrive の役割

OneDrive を使うと、作業ファイルを複数の端末とクラウドで利用できます。一方、同期では意図しない変更も伝わります。削除、誤った編集、暗号化されたファイルが、気付く前に他の端末にも反映されることがあります。サービス側のごみ箱やバージョン履歴で復旧できる場合もありますが、どちらも同じアカウントとサービスに依存します。

O&O AutoBackup で OneDrive の外にコピーを作れば、自分で管理できる別の復元手段が得られます。OneDrive のオフラインバックアップ を参照してください。

保護プランの例

一般的な家庭や小規模オフィスの PC では、次のように組み合わせられます。

1. **OneDrive で継続的に同期**し、複数端末からのアクセスや共同作業に利用します。
2. **O&O AutoBackup で毎時**、別のディスクや NAS にファイルと直前の版を保存します。
3. **少なくとも1つのバックアップを切断または隔離**し、PC 上の問題がすぐに波及しないようにします。

4. **O&O DiskImage で毎月**、また Windows やハードウェアの大きな変更の前にイメージを作成し、システム全体の復旧に備えます。
5. 障害が起きる前に、ファイルの復元とイメージによる復旧をそれぞれ試してください。

> **復元手段を組み合わせる**
>
> ファイルの消失と PC の故障の両方に備えるには、O&O AutoBackup と O&O DiskImage を併用します。同じ PC の異なる部分を保護できます。

システム要件

対応するオペレーティングシステム

- Windows 10 または Windows 11
- 対応する64ビット版 Windows PC
- 通常のユーザーアカウント。すべてのユーザーの自動起動を設定する場合など、システム全体に影響する操作に限り管理者権限が必要です。

単体で動作する Windows プログラムとして提供されます。通常、.NET を別途インストールする必要はありません。

ストレージと接続

初回のコピーと、その後に保持する版を保存するのに十分な空き容量が必要です。設定中にバックアップ容量の見積もりと保存先の空き容量が表示されます。

次のような保存先に対応しています。

- ローカルの固定ディスク、別の内蔵ディスク
- USB 接続のハードディスク、SSD、フラッシュメモリ
- Windows のネットワークパス（UNC）
- WebDAV サーバー
- S3 互換オブジェクトストレージ

リモートの保存先には認証情報やネットワーク接続が必要な場合があります。無人で実行するには、O&O AutoBackup が動作する Windows セッションから引き続きアクセスできることを確認してください。

保存先選びのヒント

コピー元とは異なる物理デバイスを使用してください。同じディスク上の別フォルダーでも誤編集には対処できますが、ディスク故障や盗難、そのディスクに及ぶランサムウェア被害には備えられません。

ノート PC では、リムーバブルドライブと**接続時に実行する設定**を組み合わせると簡単です。常時稼働する PC には、NAS や別のローカルディスクと定期スケジュールの組み合わせが適しています。

> **ロックされたファイル**
>
> 他のアプリが排他的に開いているファイルは、後の実行まで待つ必要がある場合があります。該当のアプリを閉じ、再度バックアップしてください。使用中またはスキップされたファイルは、保護済みにはならず、結果に表示されます。

インストールとライセンス認証

O&O AutoBackup は1つのプログラムファイルとして提供され、直接起動できます。自動バックアップを設定する前に、アプリの機能を使って常設場所に移動してください。

プログラムを常設場所に移動する

1. ダウンロードした O&O AutoBackup を起動します。
2. **設定 → 一般** を開きます。
3. プログラムの配置場所に関する項目で、現在のフォルダーがクリーンアップの対象になる可能性があると表示されたら、**恒久的な場所へ移動** を選びます。
4. スタートメニューとデスクトップにショートカットを作成するか選びます。
5. 画面の指示に従って O&O AutoBackup を再起動します。

ダウンロードフォルダーや一時フォルダーは、スケジュール実行するアプリの常設場所には適しません。Windows やクリーンアップツールが実行ファイルを削除すると、自動バックアップが停止します。

ライセンスを認証する

試用中は、タイトルとバージョン情報に未登録の試用版であることと残りの試用期間が表示されます。

1. 情報ボタンから **バージョン情報** を開きます。
2. ライセンスを入力または購入する項目を選びます。
3. 登録ウィザードに従い、購入時に受け取ったライセンス情報を入力します。
4. 再起動を求められたら再起動し、表示されるライセンスの種類とシリアル番号を確認します。

検証にはインターネット接続が必要な場合があります。失敗した場合は接続とファイアウォールまたはプロキシの設定を確認して再試行してください。解決しない場合は O&O サポートにお問い合わせください。

ライセンスを別の PC に移行する

現在の PC を使わなくなる前、または再インストールの前に **バージョン情報** を開き、**ライセンスを解放** を選びます。解除すると試用状態に戻り、試用期間が過ぎている場合は使えなくなることがあります。移行にはご使用のライセンス契約が適用されます。

> **継続使用にはライセンスが必要です**
>
> 試用期間は製品を評価するためのものです。終了後も O&O AutoBackup を使用するには、有効なライセンスが必要です。

初めてのバックアップ

個人フォルダーをすぐに保護できるよう、自動実行に適した初期設定が用意されています。保持条件やスケジュールのすべてを事前に把握する必要はありません。ウィザードに沿って、保存先と対象を選びます。

開始前の準備

使用する外付けドライブを接続するか、ネットワーク上の保存先に接続できることを確認します。元のファイルと同じ物理ディスクを保存先にするのは避けてください。

ウィザードを開く前に、次の点を考えます。

- **作り直すのが難しいものは何ですか。** 文書、写真、個人の動画、ソースコード、財務記録、制作中の作品などが考えられます。
- **どのような障害に備えますか。** PC の故障や盗難にも備えるには、PC の外に保存先を用意してください。

初回は、選択したコピー元のデータ量とほぼ同じ空き容量が必要になる場合があります。その後は更新頻度に応じて、版の保存に追加の容量が必要です。

バックアップを作成する

1. ホームで **自分のファイルをバックアップ** を選びます。
2. 保護する内容を選択します。デスクトップ、ドキュメント、ピクチャ、ミュージック、ビデオ、ダウンロードなどのサイズとファイル数の目安が表示されます。まずは替えのきかないデータを選びます。キャッシュやインストール済みプログラムはファイルバックアップの対象には適しません。
3. 検出された OneDrive フォルダーを確認します。デスクトップ、ドキュメント、ピクチャが OneDrive 内に移動されている場合は、アカウント全体か移動済みフォルダーのどちらか一方を選んでください。OneDrive のオフラインバックアップ を参照してください。
4. 保存先を選び、空き容量のバー、接続状態、提案された **保存先のパス:** を確認します。今回だけ別のサブフォルダーを使う場合はここで変更します。サブフォルダーを使えば、そのドライブにある無関係なファイルは削除されません。
5. 概要を確認します。既定では自動スケジュールとポータブル復元アプリが有効です。スケジュールや保持条件を変えるには **変更** を選びます。
6. 保存先を暗号化するか決めます。紛失のおそれがある USB ドライブなどでは暗号化が役立ちます。回復キーは別の場所に保管してください。
7. **ファイルの保護を開始** を選びます。

初回は選んだすべてのファイルをコピーするため時間がかかります。通常、2回目以降は新規・変更ファイルだけを転送します。一時停止または停止しても、続行できる時点で未処理の変更を反映できます。

進行状況画面では、スキャンとコピーを区別して表示します。スキャンで処理対象を調べ、コピーでデータを転送します。OneDrive のオンライン専用ファイルは、保存先に書き込む前にダウンロードする必要があります。

保護状態を確認する

ホームに戻ります。**自分のファイル** のカードに前回のバックアップ、次回予定、保存先、対処が必要な項目が表示されます。緑色や「保護済み」の状態は、スケジュールを作成しただけでなく、処理が完了したことを表します。

ドライブを取り外していた場合は、同じドライブを再接続します。接続時の実行が有効であれば自動的に再開します。Windows が別のドライブ文字を割り当てても、記録したボリュームの識別情報で正しいデバイスを見つけられます。

復元を試す

初回のバックアップが終わったら、必要なときに使えるよう次の手順で復元を試します。

1. **復元** を開きます。
2. テストしても支障のないファイルを1つ選びます。
3. すでに複数の復元ポイントがある場合は、古いものを選びます。
4. 元の場所に上書きせず、一時フォルダーに復元します。
5. 復元したファイルを開きます。

暗号化している場合はパスワードを使って一度試し、保管した回復キーの 保管庫 ID が画面の ID と一致することも確認します。事前に保存先、認証情報、復元手順を確認できます。

次に行うこと

- Windows と同時に O&O AutoBackup を起動し、通知領域に常駐する設定を維持します。
- リムーバブルの保存先は定期的に接続します。
- 最初の数回は、スケジュール実行後にホームを確認します。
- 少なくとも1つのコピーはオフラインか、他の方法で隔離した状態に保ちます。
- システム全体の復旧用に O&O DiskImage のイメージを定期的に作成します。

次は バックアップの作成と編集 または ファイルの復元 を参照してください。

バックアップの作成と編集

バックアップペアは、1つ以上の元フォルダーと1つの保存先を結び付け、スケジュール、履歴の保持、フィルター、セキュリティ設定をまとめたものです。実行ごとに同じ保護ルールを適用します。

毎回対象を選び直す必要はありません。O&O AutoBackupがペアの設定を開き、変更点を確認して、同じ方針で自動的に保護します。

カスタムバックアップを作成する

1. ホームで **カスタムのバックアップまたは同期を作成** を選択します。
2. **バックアップを作成、選んだフォルダーをバックアップ** の順に選択します。
3. 保護するフォルダーを追加します。同じファイルを二重にコピーしないよう、重複する選択は外します。
4. ローカルドライブ、リムーバブルドライブ、ネットワーク共有、WebDAV、S3から保存先を選びます。
5. 概要を確認し、必要ならスケジュールや保持設定の横の **変更** を選択します。
6. 暗号化とポータブル復元アプリを使用するかを決めます。
7. **ファイルの保護を開始** を選択します。

ペアの分け方を考える

同じユーザーのデータでも、保存先、実行時期、必要なセキュリティが異なる場合は、1つの大きなペアにまとめずに分けると管理しやすくなります。

- 業務文書は1時間ごとにNASへ暗号化して保存する。
- 大きな写真コレクションは外付けドライブ接続時に保存する。
- OneDriveは「ダウンロードしてバックアップ後、容量を解放」を使う。
- プロジェクトの一時的なエクスポートはバックアップ対象から外す。

一方、関連する個人フォルダーを1つのペアにすると、ホームの表示が簡潔になり、同じ復元履歴を使えます。フォルダー数よりも、どのように復元したいかで決めてください。

既存のバックアップを編集する

ホームでペアを選び **変更** を選択するか、ペアをダブルクリックします。バックアップ元、保存先の動作、対象ファイル、スケジュール、保持設定を編集して保存します。

元フォルダーを変更しても、すでに保存したファイルは直ちに削除されません。過去のバージョンには保持ルールが適用されるため、設定を誤ってもその場で履歴を失うことはありません。

リムーバブルドライブを交換するときは、アプリから保存先を変更してください。エクスプローラーでフォルダーをコピーしてドライブ文字だけを変えると、ペアに別のデバイスの識別情報が残る可能性があります。

一度バックアップを実行すると、暗号化と名前の非表示は変更できません。後から暗号化をオンにしても過去の平文は保護されず、オフにしても暗号化済みファイルは復号されないためです。変更するには空の保存先と新しいペアを用意してください。

ペアを削除する

ペアを削除すると設定と復元ポイントが画面から消えます。保存先のファイルは **削除されません**。確認画面を読み、保存データは不要と確かめてから別途削除してください。

ペアを削除する前に保存先を開き、復元をテストしてください。新しいペアに切り替える場合は、初回バックアップと復元テストが成功するまで元の保存先を残します。

> **用途の分かる名前を付ける**
>
> 複数のペアがある場合、「バックアップ2」より「ノートPCの文書 → オフィスのNAS」のような名前の方が、問題発生時に対象を特定しやすくなります。

バックアップ元と保存先

バックアップ元は **何を保護するか**、保存先は **どの障害から復元できるか** を決めます。対象を正しく選んでも保存先が適切でなければ十分な備えになりません。

バックアップ元を選ぶ

作成・収集した大切な文書、写真、プロジェクトなどのフォルダーを選択します。初回実行前にタイルに件数と容量の見積もりが表示され、所要時間や必要容量の目安になります。

自分で作成・収集したデータを優先します。Windowsやアプリは通常再インストールできます。プログラムフォルダーをコピーしても、正常に動くインストール環境を復元できるとは限りません。システムイメージは別途必要です。

ファイル単位の復元に適さないOSやプログラムのフォルダーは通常除外されます。独自の除外やファイル種類のグループは **設定 → フォルダー** と **設定 → フィルター** で管理します。

OneDriveとの統合では、オンラインのみのファイルを取得してから保存するため通信量とローカルの一時領域が必要です。処理後にプレースホルダーに戻せます。OneDriveのオフラインバックアップ を参照してください。

保存先を選ぶ

保存先の画面には空き容量と予想使用量が表示されます。選択後、**保存先のパス:** で今回使用するフルパスを確認します。提案されたサブフォルダーは開始前にウィザードで変更できます。

- **USBドライブ：** 持ち運びやすく、取り外せばランサムウェアから隔離できます。紛失や破損に注意してください。
- **別の内蔵ディスク：** 高速で常に使えますが、同じPC内にあります。
- **ネットワーク共有：** 複数のPCで便利です。サインイン中のアカウントから継続してアクセスできることを確認します。
- **WebDAVまたはS3：** 対応するリモートサービスに保存できます。性能は接続速度とサービス側の動作に依存します。

NASまたはネットワーク共有を追加する

保存先を追加 から **NAS / ネットワーク共有** を選び、**サーバーアドレス**、**共有名**、必要ならユーザー名とパスワードを入力します。認証情報を安全に保存し、次回以降はSMB共有を自動的に再接続します。すでに割り当てたネットワークドライブは保存先一覧に直接表示されることもあります。

アクセス可能な共有内に保存先フォルダーがなければ作成し、空き容量を表示します。共有を利用できない場合は、保存した認証情報とネットワーク接続を確認します。

保存先フォルダーを選ぶ

設定 → 保存先フォルダー で提案するサブフォルダーを指定します。既定はバックアップに `Backup`、同期に `Sync`、復元に `Recovery_{date}_{time}` です。テンプレートを変えず今回のパスだけ変更できます。

サブフォルダーを削除すると、選択した保存先自体を使用します。ドライブや共有のルートの場合は **注意: すべてがドライブのルートに、そこにある他のデータと混在して保存されます。** と警告します。同期ではルート内の他のファイルも削除し得るため、より強い警告が出ます。意図してルートを選ぶことは可能です。

保存先ごとに保護できる範囲

保存先	元ディスクの故障に対応	PCから隔離可能	インターネットなしで利用	主な注意点
同じディスクの別フォルダー	いいえ	いいえ	はい	ハードウェアとマルウェアの影響範囲が同じ
別の内蔵ディスク	はい	通常は不可	はい	同じPC内で影響を受ける
リムーバブルUSBドライブ	はい	取り外せば可能	はい	定期的な接続と安全な保管が必要
NAS／ネットワーク共有	はい	権限やスナップショットによる	通常はLAN内で可能	認証、ネットワーク、ランサムウェアからのアクセス
WebDAV／S3	はい	アカウント構成による	いいえ	事業者、認証、通信速度、復元時間

重要なデータでは、1つの保存先ですべてのリスクをカバーするのは困難です。定期的に使える保存先で新しい復元ポイントを確保し、取り外したコピーや別の認証情報で保護するコピーで隔離できます。

リムーバブルドライブの識別

Windowsは再接続後に別のドライブ文字を割り当てることがあります。O&O AutoBackupは保存先ボリュームを記録し、文字が変わっても識別できます。以前の文字が割り当てられただけの無関係なディスクには書き込みません。

ドライブを交換するときは新しいドライブに古いパスを再現せず、**別の保存先を選択** で意図した変更を登録してください。

保存先の空き容量

空きが少ない場合は古い版の保持期間を短くするか、保存先の容量を確保します。自動管理では古い対象バージョンから削除し、各ファイルの最新バージョンは残します。

容量は現在の合計に加え、変更頻度を考慮します。ほとんど変わらない500 GBの写真より、大きなファイルが毎日変わる50 GBのプロジェクトの方が履歴の容量を消費する場合があります。最初の1週間後と、普段の繁忙期の後に確認してください。

> **オフラインのコピーを少なくとも1つ残す**
>
> 常時接続の保存先はマルウェアや誤削除の影響を受けます。リムーバブルドライブを定期的に取り外すか、別の独立したコピーを保管してください。

OneDriveをオフラインバックアップで保護する

OneDriveはデバイス間でファイルを同期し、共有・共同作業を可能にします。ただしそれだけでは独立したバックアップになりません。誤削除や意図しない上書きもクラウド側に反映されるためです。

同期先にも同じ変更が届く

同期フォルダーの変更をクラウドや他のデバイスにも反映するのがOneDriveの役割です。便利な仕組みですが、次のような変更も伝わります。

- フォルダーの誤削除がすべてのデバイスに反映される。
- アプリが正常なファイルを破損または未完成のデータで上書きする。
- マルウェアがOneDrive上のファイルを暗号化し、その状態が同期される。
- アカウントにアクセスできる他の人がデータを変更・削除する。
- アカウントにアクセスできなくなる、またはサービスやインターネットを利用できないときにファイルが必要になる。

OneDrive自身の履歴や復旧機能もありますが、同じ事業者、アカウント、管理権限の範囲にあります。オフラインまたは別管理の保存先があれば、別の経路でデータを取り戻せます。

オフラインコピーとは

同じOneDriveの別の同期フォルダーではなく、バックアップ後に取り外すUSBドライブや、OneDriveアカウントとは別の権限で管理するストレージなどに保存するコピーです。

このコピーには次の特長があります。

1. **OneDriveで削除しても自動的には消えません。** O&O AutoBackupの履歴から過去の状態に戻せます。
2. **クラウドアカウントがなくても利用できます。** 復元アプリで保存先から復元できます。
3. **アクセス経路を分離できます。** OneDriveアカウントを乗っ取られても、取り外したドライブはそのセッションから変更できません。

OneDriveのバックアップ対象を選ぶ

現在のWindowsユーザーに設定された個人用・法人用OneDriveアカウントを検出します。

1. **自分のファイルをバックアップ** を開始するか、カスタムバックアップを作成します。
2. 保護したいOneDriveアカウントまたはフォルダーを選びます。
3. デスクトップ、ドキュメント、ピクチャがOneDriveに移動されている場合は画面の案内に従い、アカウント全体 **または** 移動されたフォルダーの一方だけを選択します。
4. 対象アカウントの外にある保存先を選びます。
5. オンラインのみのファイルの扱いを確認します。

広い範囲を選んだとき、その中のOneDriveフォルダーは既定で除外されます。ユーザープロファイル全体を選んだだけでクラウドの全データをダウンロードするのを防ぐためです。OneDriveフォルダーを明示的に選ぶと対象

になります。

ファイルオンデマンドとプレースホルダー

エクスプローラーに見えても、オンラインのみのファイルの内容はPCにありません。保存するには、まずOneDriveから実データをダウンロードする必要があります。

オンラインのみのファイルの扱いは次から選べます。

設定	動作	適した場面	注意点
自動 (推奨)	初めてオンラインのみのファイルが見つかったときに確認し、ペアごとに選択を記憶します。	通常の利用	実際の件数と容量を見て判断できます。
ダウンロードしてバックアップ	ダウンロードして保存し、PCにも実データを残します。	空き容量が十分で、ローカルでも利用したいPC	バックアップ後もローカル容量を消費します。
ダウンロードしてバックアップ後、容量を解放	各ファイルを取得・保存後、再びオンラインのみの状態に戻すようOneDriveに要求します。	大きなライブラリと空き容量の少ないPC	時間がかかり、一時的に通信帯域と空き容量を使用します。
オンラインのみのファイルをスキップ	PCに実体のあるファイルだけを保存します。	意図的に対象を限定する場合	スキップしたファイルは **このバックアップでは保護されません**。

必要なデータを取得する容量が足りない場合、保存可能なものを保護し、スキップした項目を報告します。空きを確保して未処理分を実行してください。

通信量、時間、保存容量

初回はOneDriveから大量にダウンロードし、さらに保存先にコピーまたはアップロードする場合があります。リモート保存ではネットワークを2回利用します。安定した従量制ではない接続で、十分な時間を取って実行してください。

以後は通常、新規・変更ファイルだけを処理します。ホームとログでクラウドから取得したファイルと取得できなかったファイルを区別できます。

クラウドに誤った変更が反映された後の復元

意図しない変更が同期されたら、次のようにします。

1. さらに変更が広がる可能性があればOneDriveの同期を一時停止します。
2. O&O AutoBackupの保存先を接続します。
3. **復元** を開き、削除または編集前の復元ポイントを選びます。
4. まず別のフォルダーに復元します。
5. ファイルを確認して、OneDriveに戻すものを選びます。

別フォルダーに復元すれば、確認前のデータが再び同期されるのを防げます。

保存先は元のOneDriveの外に置く

保護するアカウントの外に保存してください。同じ同期ツリー内のバックアップは、同期による変更、アカウント喪失、サービス停止の影響を同じように受けます。

スケジュールと自動保護

ペアを開いて自動バックアップ設定で実行時期を指定します。頻度を上げるほど **復元可能な時点が新しく** なりますが、PC、保存先、ネットワークの **使用頻度** も上がります。

失っても許容できる直近の作業時間の目安を、目標復旧時点（RPO）と呼びます。毎時の設定なら、PCと保存先が利用できるときはおおむね1時間以内を目指せます。スリープ中やドライブ未接続時の毎正時の完了は保証されず、条件が整った時点で実行します。

選択できるスケジュール

- **連続**：変更を監視し、更新が短時間落ち着いてから開始します。
- **15 分ごと**：常時監視せずに高頻度で保護します。
- **毎時**：個人ファイルの保護の既定値です。
- **毎日、毎週、毎月**：指定時刻と、必要に応じて曜日または日付に実行します。
- **手動のみ**：自分で開始したときだけ実行します。

スケジュールの選び方

- 通常接続されている保存先に、頻繁に変わる小さな文書群を保存するには **連続** が適しています。
- 1時間分の作業を失えない場合は **15 分ごと** を使用します。
- 一般的な個人ファイルには **毎時** が目安です。
- 変更の少ない大きなアーカイブには **毎日または毎週** が適しています。
- **手動のみ** は、別の仕組みで実行を忘れずに済む場合に使用します。実行忘れは手動バックアップでよく起こる問題です。

間隔は前回の終了時刻基準ではなく時計に合わせます。終了直後に次の実行を重ねません。次の正時に繰り延べるときは少なくとも5分先になるようにし、5分未満ならその次の正時にします。

連続モードはファイルの変更が落ち着くまで少し待ち、保存途中の一時的な書き込みごとに開始しないようにします。変更が続く場合も延期回数に上限があり、無期限には待ちません。

ドライブを接続したときに実行する

正しい保存先を検出したときに実行できます。ノートPCとUSBドライブが決まった時刻にそろわない場合に便利です。中断後も再接続して続行できます。

たとえば机に戻ったらドライブを接続し、未処理分の完了と保護状態を確認して取り外します。取り外すとデータを隔離でき、定期的な再接続で新しい復元ポイントを保てます。

自動起動を有効にする

O&O AutoBackup自身がスケジュールを実行します。**設定 → 自動起動** で次の項目を確認します。

1. 現在のユーザーまたは全ユーザーの自動起動を有効にします。

2. **通知領域で動作し続ける** を有効にします。
3. 必要ならサインイン後の初回実行を遅らせるか、PCのアイドル時だけ実行します。
4. バッテリー駆動中や従量制接続中の自動実行を許可するか選択します。

ウィンドウを閉じて通知領域に格納できます。自動起動や通知領域での動作が無効な場合は、アプリを開いている間だけスケジュールが実行されます。

全ユーザーの設定には管理者権限と全アカウントがアクセスできるアプリの設置場所が必要です。個人用PCでは通常、現在のユーザーを選びます。

実行できなかった予定と延期

スリープ、シャットダウン、電源設定、従量制接続、保存先の不在により延期される場合があります。理由を表示し、条件が解消すると未処理分を実行します。次の時刻を待たずに開始するには **今すぐ実行** を選びます。

スケジュールがあることと完了したことは異なります。データが保存先に届いたかどうかは、ホームの前回の成功状態で確認してください。

バージョン履歴と保持期間

バックアップが成功すると、その時点の状態に復元できます。保持ルールは、古いコピーで保存先がいっぱいにならないように、残す履歴を調整します。

最新コピーは現在の状態を示します。昨日の内容、整理前のフォルダー構成、先週消えたファイルを取り戻すには、以前のバージョンが必要です。最新の状態しかないバックアップでは対応できません。

バージョンの数え方

バージョンは、実行時に新しい内容で置き換えられた **個々のファイル** の以前のコピーです。現在のコピーと同じ場所に日時付きの名前で保存されます。現行コピーはバージョン数に含まれず、常に残ります。

履歴は実行単位ではなくファイル単位です。変更がなければバージョンは作成されず、1ファイルを更新すれば1バージョンが作成されます。毎日編集する文書には多くの復元ポイントがあり、初回以降変更していないフォルダーには過去のバージョンがないのはこのためです。

元のファイルを削除しても、保存先にその状態が残っていれば復元できます。バックアップでは、元の削除はすでにあるコピーに即時反映されません。復元のタイムラインで必要な時点を選びます。

自動で履歴を間引く仕組み

既定のルールでは、最近の変更を細かく残し、時間がたつにつれて間隔を広げます。

- 直近1時間はすべてのバージョン。
- 直近24時間は1時間に1バージョン。
- 直近1か月は1日に1バージョン。
- それより前は1週間に1バージョン。

各時間枠内では、同じファイルの最新のバージョンを保持します。バックアップ1回分をまとめて削除するわけではありません。

時間、日、週の順に間隔が広がり、最後の週単位の段階は履歴が続く限り終わりません。月単位の段階はなく、この仕組みだけで古さを理由に削除されることはありません。履歴は実行回数より緩やかに増え続けます。

容量を自動的に管理する (古いバージョンを間引く) は既定で有効で、バックアップごとに切り替えます。オフにすると、自分で削除するまですべてのバージョンが残ります。間引きはそのバックアップの実行中に、今回コピーしたファイルだけでなく、保存先全体の履歴に対して行います。

空き容量が少ない場合は、わずかな予備領域を確保できるまで古いバージョンから削除します。その場合でも、保護する各ファイルの最新の保存バージョンは残ります。

最近の誤操作は比較的早く気付くことが多いため、直近では細かな変更に戻せます。以前の復元ポイントは間隔を広げ、数か月前のすべての時間帯を残さずに長期の履歴を確保します。

履歴が間引かれていないように見える理由

同じファイルの複数のバージョンが同じ時間枠にある場合だけ集約されます。数週間変化が見えなくても異常とは限りません。

- **開始直後：** 直近1時間はすべて保持し、時間単位では同じ時間帯の同じファイルだけをまとめます。
- **変更が1日1回程度：** 日次バックアップで1日に1回だけ変更する場合、日単位ではすでに1つなので間引かれません。通常は約1か月後、毎日の分が週1つにまとまるころに減少が見えます。
- **変更自体が少ない：** 未変更のファイルにはバージョンが増えないため、間引くものもありません。
- **時間経過後に実行していない：** このバックアップの実行中にだけ履歴が整理されます。未実行のバックアップには触れません。

動作を試すには、1時間のうちに同じファイルを数回編集し、毎回バックアップした後、1時間以上たってから再び実行します。その時間帯については最後のバージョンだけが残ります。

任意の上限

さらに **次の期間より古いバージョンを削除**（日数）と **ファイルごとの最大バージョン数** の上限を任意で設定できます。すべて保持する、日数で制限する、空き容量に合わせるといった運用が可能です。両方の上限は自動管理がオンのときだけ、段階的な間引きに加えて適用されます。現行コピーは対象外です。履歴が多いほど復元の選択肢は増えますが、容量が必要です。

すべて保持 は使用量を監視し、容量を拡張できる場合に適しています。日数による上限は予測しやすい一方、削除に気付くのが遅れると唯一の過去コピーを失うことがあります。空き容量に応じる場合も、現行データを保存できる容量は必要です。

間引きが行われたことを確認する

バージョンを削除した実行はホームのアクティビティに整理処理として記録され、プログラムログに件数と解放容量が残ります。統合された復元ポイントはタイムラインから消えますが、各ファイルの最新状態は利用できます。

例

`Budget.xlsx` を09:00、10:00、15:00に編集したとします。最初は3バージョンすべてを保持します。その後、時間、日、週単位の代表となるバージョンを残します。正午時点の復元では10:00の版、前日を選ぶとその日に存在した版を取得します。

保持ルールは保存した履歴を対象とします。古い復元ポイントを削除しても現在の元ファイルは削除されません。

同期ペアの場合

バージョン履歴を保持するのはバックアップだけです。ミラーと双方向同期では、置き換えたファイルや削除したファイルは通常Windowsのごみ箱に移動します。ネットワーク共有などで移動できない場合は、以前のコピーを日時付きの名前で残します。これらは履歴ではなくごみ箱に近い扱いで、各ファイル数バージョン、約1か月を目安に整理されます。履歴が必要な場合はバックアップペアを併用してください。

変更頻度を考慮する

初回のデータ量はあくまで基準です。頻繁に変更する動画プロジェクトやデータベースは、ほとんど変わらない文書より多くの履歴を作ります。最初の1週間後に保存先の容量を確認してください。

暗号化と回復キー

暗号化すると、ドライブやリモートストレージに第三者がアクセスしてもバックアップの内容を保護できます。O&O AutoBackupはArgon2idでパスワードから鍵を導出し、認証付き暗号AES-256-GCMでファイルを個別に暗号化します。名前も非表示にできます。

パスワードまたは回復キーがなければ、コピーを入手しても内容を読み取れません。暗号文の認証により改変を検出でき、壊れた平文を正常なデータとして復元することも防げます。

紛失のおそれがある携帯用ドライブ、共有ストレージ、自分で物理的に管理していない保存先で特に役立ちます。その分、復元に必要な認証情報の保管も欠かせません。

暗号化を有効にする

バックアップの設定時に次の操作を行います。

1. 概要画面で **このバックアップを暗号化する** を有効にします。
2. 8文字以上のパスワードを入力します。数文字を記号に置き換えるだけでなく、十分な長さを確保してください。
3. 確認のため同じパスワードを入力します。
4. 生成された回復キーを保存、印刷、または安全な場所にコピーします。
5. 安全な場所に保管したことを確認して設定を完了します。

回復キーはバックアップの保存先や保護対象PCとは別の場所に保管してください。パスワードマネージャーと安全に保管した印刷物を併用できます。キーは設定時に表示されます。後から再表示できるとは限りません。

設定後に変更できない項目

暗号化は保存先への書き込み形式を変えます。設定時の選択はそのバックアップに対して固定されます。後から構成を変えるには、新しいペアと保存先を用意してください。

後から暗号化しても古いファイルは平文のままです。暗号化を無効にしても保存済みデータは復号されません。混在した保存先を「暗号化済み」と扱うことはできません。

暗号化はバックアップモード専用です。同期先はファイルを直接編集する作業フォルダーであり、暗号化されたバックアップオブジェクトには変換しません。

ファイル名とフォルダー名も隠す

内容を暗号化しても `Tax Return 2026.pdf` のような名前から情報が漏れる場合があります。**ファイル名とフォルダーも隠す** を有効にすると、ランダムな名前で保存し、フォルダー構成を暗号化したインデックスで管理します。

名前を隠すとエクスプローラーだけでは元の名前や配置で復元できません。保存先にポータブル復元アプリを用意し、暗号化インデックスを保管してください。インデックスを失っても保存済みオブジェクトから再構築できますが、過去の構成の一部は完全に再現できません。

暗号化バックアップを開く

参照・復元時にパスワードを入力します。忘れた場合は回復キーを選び、保存したキーを入力します。回復キーは大文字・小文字とハイフンの有無を区別しません。

現在のPCに解除情報を記憶させると、スケジュール実行のたびに入力する必要がありません。別のPCではパスワードまたは回復キーが必要です。暗号化バックアップの復元 を参照してください。

暗号化の制限

- O&Oサポートでも失われたパスワードや回復キーを再作成できません。
- 唯一のバックアップがあるリムーバブルドライブにパスワードを保管しないでください。
- 保護されるのは保存先のバックアップです。PC上の暗号化されていない元ファイルは保護対象外です。
- 保存先を失えばバックアップも失われます。暗号化とは別に複数のコピーを用意してください。
- 回復キーを持つ人はバックアップを読み取れます。単なる控えとして安易に扱わないでください。
- 暗号化による圧縮や容量の節約はありません。

回復キーを保管する

パスワードと回復キーの両方を失うと復元できません。テスト復元でパスワードを確認し、回復シートの保管庫 IDとバックアップが一致することも確認してください。

バックアップの実行と監視

バックアップを開始する

バックアップのカードで **もう一度バックアップ** を選ぶか、期限を迎えた全ペアを **すべて今すぐバックアップ** で開始します。通知領域からも実行できます。進行画面にはスキャン状況、件数、転送量、保存先、**現在のサブフォルダー** が表示されます。

一時停止やキャンセルをしても完了済みの処理は有効です。次回の実行時に再スキャンし、残りの変更を反映します。

バックグラウンドで続行 で実行を止めずホームに戻れます。ウィザード、ホーム、スケジュール、通知領域のどこから開始しても利用できます。実行中のカードを選ぶと進行画面に戻り、一時停止やキャンセルができます。

実行途中で失敗したファイルがあれば、これまでの問題を表示する項目または **詳細** を選びます。対象ファイルと原因（保存先の容量不足、クラウドからの取得失敗、Windowsの読み書きエラーなど）が表示され、終了まで更新されます。

ホーム画面の見方

各ペアに前回・次回の実行と対応の要否が表示されます。主な状態は次のとおりです。

- **保護中**：直近の実行が完了しています。
- **バックアップ用ドライブを待機中**：登録された保存先を再接続します。
- **バッテリーまたは従量制接続で一時停止**：設定を変えるか、条件が解消するまで待ちます。
- **ファイルが使用中**：使用中のアプリを閉じて再実行します。
- **保存先が満杯または接続できない**：空き容量または接続を回復します。

待機状態は失敗ではありません。何を待ち、どの条件で再開するかを示します。

実行中ずっとホームを表示していても、終了後にはカードの件数と状態が更新されます。

通知領域

メイン画面を閉じても、通知領域のアイコンが動作していればスケジュールは有効です。メニューからアプリを開く、実行する、バックアップを表示する、処理をキャンセルするといった操作ができます。

既定では問題がある場合だけ通知します。通常の開始・終了でも、履歴はホームとログに残ります。

ログを確認する

ログ で完了した処理、警告、エラーを確認します。繰り返し失敗する場合はペア、日時、元のパス、保存先、正確なメッセージを控えてサポートにお問い合わせください。

同期の仕組み

同期は決められたルールで2つのフォルダーの内容をそろえる操作です。PC 上のプロジェクトと携帯用の作業コピーなど、どちらも作業に使う場合に便利です。モードによっては上書きや削除も行うため、同期だけでバックアップになるわけではありません。

バックアップは以前の状態を取り戻すためのもの

バージョン管理付きバックアップは履歴を守ります。今日のファイルに問題があれば昨日の版に戻せます。コピー元で削除しても、保持中の復元ポイントに残っていることがあります。保存先は主に復元用で、普段の編集には使いません。

同期は現在のフォルダーをそろえるためのもの

左右を比較し、プレビューを作成して、選んだルールを適用します。モードに応じて次の処理を行います。

- 一方向または双方向にコピーする。
- 古いファイルを新しいファイルに置き換える。
- 名前変更や削除を反対側に反映する。
- 削除せずに2つのファイル集合をまとめる。
- 両側で別々に変わったファイルの競合を解決する。

同じ2つのフォルダーでもモードによって結果が大きく異なります。先に目的を決めてからペアを作成してください。

目的からモードを選ぶ

目的	モード
以前の版や削除したファイルを取り戻す	**バックアップ**
右側に追加・更新し、右にしかないファイルを残す	**コピー**
削除を反映せず、両フォルダーのすべてを統合する	**マージ**
右のフォルダーを左の正確な複製にする	**ミラー**
両側で作業し、全変更を双方向に反映する	**双方向**

大切なデータにミラーや双方向を使う前に、各モードの詳細 を確認してください。

左と右を確認する

一方向モードでは**左**がコピー元、**右**が保存先です。逆にすると結果も逆になります。双方向モードではどちらも変更元になれますが、競合ルールの基準には左と右を使います。

ペア名は `Laptop projects → USB working copy` のように方向がわかる名前にしましょう。初回実行前にプレビューで両方のパスを確認します。

プレビューで変更を確認する

同期を適用する前に、作成、更新、移動、削除、スキップの予定件数が表示されます。実行前に次の点を確認します。

- **削除** が想定より多い場合は理由を調べます。
- 意図した方向と逆の変更があれば、モードやフォルダーの左右を確認します。
- 競合は、前回の比較後、対応する同じファイルが両方で変更されたことを示します。

プレビューでキャンセルすれば何も変更されません。意外な結果が出たときは、試しに承認せず、戻ってペアを修正します。

> **バックアップと同期を組み合わせる**
>
> 同期で作業フォルダーを使いやすく保ちながら、別のバックアップペアに履歴を残せば、誤った変更が同期された場合にも備えられます。

各同期モードの詳細

ペアのウィザードには5つのモードがあります。同期モードと同じ場所で **バックアップ** も選べるため、目的に応じて指定できます。

バックアップ — 各版を保持する

動作： 新規・変更ファイルを左から右にコピーし、履歴を残します。コピー元から消えただけでは保存先のコピーは削除されません。ファイルが変わると、日時を付けて版を保存します。

用途： 保存先の見た目をコピー元と完全に一致させることより、文書、写真、プロジェクトを確実に復元できることを優先する場合。

結果： 保存先に版の履歴が蓄積され、削除済みのファイルや以前の版を O&O AutoBackup で復元できます。自動整理で古い履歴を絞り、無制限な増加を抑えます。

注意： 長期的には最も多くの容量を必要とします。古い版もバックアップ構成に含まれるため、保存先は日常の作業フォルダーには適しません。

コピー — 追加・更新し、削除は反映しない

動作： 新規・変更ファイルを左から右にコピーします。変更時は右の旧版を置き換えてごみ箱に送ります。左で削除しても右のファイルは消えません。

用途： エクスポートしたファイルを確認用フォルダーに集める、新しいメディアをライブラリに追加するなど、コピー元のファイルを別の場所に蓄積する場合。

結果： 右側には、左にも残っているファイルの最新コピーと、左では削除された過去のファイルが共存します。O&O AutoBackup のバージョン履歴は作られません。

注意： 左側の削除を反映しないため、古いファイルが残り続けます。置換前のファイルは保持ポリシーの対象ではなく、ごみ箱に依存します。

マージ — 削除せずに両方をまとめる

動作： 新規・変更ファイルを双方にコピーし、各フォルダーに両者のファイルをそろえます。削除は反映しません。

用途： 整理前に2台の PC の写真フォルダーをまとめるなど、一方にしかないファイルを失わずに2つの不完全なコレクションを統合する場合。

結果： 両方のフォルダーが開始時の双方のファイルを含みます。一方で削除しても他方に残っているファイルはコピーで戻ります。

注意： 削除して整理する用途には適しません。同じファイルが両側で異なる変更を受けた場合は設定した競合ルールが適用されます。

ミラー — 右のフォルダーを左と一致させる

動作： 左を正として、新規作成、編集、名前変更、削除を左から右に反映し、右の内容を左に合わせます。

用途： 配布用フォルダーを置き換え可能な場所へ公開する、すぐ使える複製を維持する、機器の内容をマスターフォルダーと同一に保つ場合。

結果： 正常終了時に右は左の現状と一致します。右にしかない項目は通常ごみ箱に移されます。

注意： 左での誤削除も反映されます。右にだけ置いた独自のファイルも不要と判断され、削除される場合があります。ミラー自体には版の履歴がありません。

双方向 — どちらの変更も反映する

動作： 双方を作業フォルダーとして扱い、どちらで行った新規作成、編集、名前変更、削除も他方に反映します。

用途： デスクトップと持ち運び用ドライブのように、2か所を交互に使い、どちらでもファイルを変更する場合。

結果： 両側の現在の状態がそろいます。前回の実行後に一方から削除したファイルは他方でも削除し、双方で同じファイルを変更した場合は競合ルールを適用します。

注意： 変更の影響を最も慎重に判断する必要があります。誤編集や削除がどちらにも伝わり、時計のずれが「新しい方」の判定に影響します。必ずプレビューを確認し、別のバックアップに版を残してください。

比較表

モード	方向	削除を反映	O&O AutoBackup のバージョン履歴	目的
バックアップ	左 → 右	いいえ	あり	復元できる履歴を保持
コピー	左 → 右	いいえ	なし	コピーを追加・更新
マージ	左 ↔ 右	いいえ	なし	両方のファイルを統合
ミラー	左 → 右	はい	なし	右を左と完全に一致
双方向	左 ↔ 右	はい	なし	双方の現状を一致

削除を反映しないモードとバックアップの違い

コピーとマージは削除を伝播しませんが、変更ファイルの版を O&O AutoBackup で管理することもありません。以前の版を確実に取り出す必要がある場合は、バックアップを選んでください。

削除と競合を安全に扱う

同期で予期しない結果が出る主な原因は、一方のファイルを削除した場合と、同じファイルを両側で別々に編集した場合です。どちらも変更前にプレビューで確認できます。

削除がどのように反映されるか

モード	左で削除した場合	右で削除した場合
バックアップ	保存先の履歴は保持されます	保存先を手動で編集しないでください
コピー	右のコピーは残ります	左には反映されません
マージ	右のコピーが左に戻ります	左のコピーが右に戻ります
ミラー	右のコピーも削除されます	左のコピーから右に再作成されます
双方向	右にも削除が反映されます	左にも削除が反映されます

ミラーと双方向では、削除・置換対象を通常まず Windows のごみ箱に移します。ごみ箱の容量と整理は Windows が管理するため、履歴の代用にはなりません。重要なファイルには別にバックアップペアを作成してください。

ミラーと双方向には、**詳細設定** に **コピー先でファイルを削除する前に確認する** があります。既定でオンで、手動実行時のみ適用されます。プレビューの後に確認が表示され、置換対象は除いて実際に削除する件数だけを数えます。スケジュール実行では確認せず、削除予定はプレビューに表示されます。手動実行でも追加確認を省きたい場合だけオフにしてください。

ドライブや共有のルートを直接指定すると、保存先画面に **注意: 同期はドライブのルート全体を対象とし、そこにあるファイルを削除する場合があります。** と表示されます。ルート全体を同期する意図がない限り、専用サブフォルダーを使ってください。

名前変更がコピーと削除として表示される場合

O&O AutoBackup は可能な限り名前変更や移動を検出し、再コピーを省きます。ストレージの種類が異なるなど同一ファイルと判定できない場合は、新しいパスへの作成と古いパスからの削除が表示されることがあります。最終結果が正しくても、予想外に大規模な変更は続行前に確認してください。

同じファイルを両側で変更した場合

前回の同期後に両方のコピーを変更すると競合が発生します。**詳細設定** で適切なルールを選びます。

- **新しい方を残す** は更新日時で選びます。便利ですが、時計とタイムスタンプの精度に依存します。
- **両方を残す** は、比較できるよう両方の版を保持します。どちらの編集も重要な場合に安全です。
- **左を優先** は、競合した際に常に左のコピーを採用します。
- **右を優先** は、競合した際に常に右のコピーを採用します。

- **そのファイルをスキップ** は、手動で確認できるよう競合を保留します。

このルールは実際の競合にのみ適用されます。片側だけの通常の変更には適用されません。

初回同期を安全に行う

1. 両方のフォルダーのバージョン管理付きバックアップを作成します。
2. 同期方向がわかるペア名を付けます。
3. スケジュールを有効にする前に手動で実行します。
4. プレビューの件数と、削除予定の項目をすべて確認します。
5. 初めて使うモードは、小さく、重要なデータのないフォルダーで試します。
6. 両側の結果を確認します。
7. 確認が終わってから自動または継続実行を有効にします。

継続的に同期する場合の注意

継続モードでは変更が短時間途切れたところで実行します。便利な一方、誤操作が反映されるまでの時間も短くなります。ミラーや双方向を使う場合は別のペアで版を残し、大規模な整理の途中に両側を同時に編集するのは避けてください。

意図しない同期を実行した場合

1. 次の実行で被害が広がらないようペアを停止します。
2. 同期で削除・置換したファイルがごみ箱にないか確認します。
3. 原因を調べている間は、両側で広範囲の編集をしないでください。
4. 独立したバックアップペアから別のフォルダーに復元します。
5. 内容を比較して確認したうえで、同期対象の場所に戻します。

> **ミラーと双方向は削除も反映します**
>
> 削除を反映するのはこれらのモードの仕様です。誤削除に備えるには、別のバックアップに版を保持してください。

ファイルを復元

ファイルを復元する方法は複数あります。元の PC や当時のペア設定が残っていなくても復元できます。

状況に応じて方法を選ぶ

状況	操作
元の PC とペアがある	ホームでペアを選び、**復元** を選択
ペアを削除した、または別の PC を使う	**既存のバックアップを開く** を選択
O&O AutoBackup がインストールされていない	保存先の **このバックアップを復旧** を起動
暗号化していないファイルの現行版だけが必要	エクスプローラーで直接コピー
元のフォルダーがわからない	バックアップを検索する
バックアップが暗号化されている	暗号化されたバックアップを復元する の手順でロックを解除

いずれの方法もバックアップを読み込み、復元先にコピーを書き込みます。バックアップ内の版は削除されません。

ホームから復元する

1. バックアップペアを選び、**復元** を選択します。
2. 保存先を取り外している場合は接続して再試行します。
3. **バックアップ全体を復元** または **選択したファイルを復元** を選びます。
4. 一部だけを復元する場合は、ツリーまたはファイル一覧で必要な項目を選択します。
5. 日付の操作で**以前の時点に戻り**、その復元ポイントの状態を表示します。
6. 復元先フォルダーを選びます。**設定 → 保存先フォルダー** の **復元** テンプレートからフォルダーが提案されます。既定は `Recovery_{date}_{time}` です。この復元だけ別のパスに変更することもできます。
7. 選択内容を確認し、復元を開始します。

全体または一部を復元する

バックアップ全体を復元 は、データドライブの交換やユーザーアカウントの再作成後に適しています。空き容量を確認し、まず最上位のフォルダーを1つ復元して試すことも検討してください。

日常の操作ミスには **選択したファイルを復元** が適しています。ツリーでは元のフォルダー構成がわかり、全ファイルの一覧では元の場所がわからなくても名前から選べます。

以前の版を現行版と比較するには、別のフォルダーへの復元が安全です。元の場所に復元する場合は上書きの選択をよく確認してください。別フォルダーを使えば、確認する前にクラウド同期で復元データが配布されることも防げます。

既存のバックアップを開く

使用中の PC にペアがない場合は、ホームで **既存のバックアップを開く** を選び、ドライブまたはバックアップフォルダーを指定します。以降は同じ手順でファイルを選びます。

バックアップ自体のメタデータを読むため、元のペア設定ファイルは不要です。ネットワークの保存先では、フォルダーを一覧表示するたびに通信するため、時間がかかることがあります。

指定時点の状態を表示する

選んだ日付によってツリーに表示される版が変わります。昨日削除したファイルも、削除前の復元ポイントを選べば表示されることがあります。復元ポイントを切り替えても、表示が変わるだけでバックアップの内容は変わりません。

各復元ポイントにはその時点のフォルダーの状態が表示されます。改名したファイルは古い名前で探します。削除した場合は削除前の日付を選びます。上書きした場合は、保存されている最新版が正しいとは限らないため、前後の版を比較してください。

ポータブル復元アプリで復元する

プログラムのコピーをバックアップと一緒に保管する を有効にすると、保存先に **このバックアップを復旧** が置かれます。対応する Windows PC で起動してください。機能限定の復元モードでそのバックアップを直接開きます。PC にスケジュールは設定せず、製品ライセンスも必要ありません。

履歴を扱うアプリがデータと一緒にあるため、障害復旧時に適した方法です。ポータブル復元アプリ を参照してください。

エクスプローラーで直接取り出す

暗号化しておらず名前も非表示にしていないバックアップなら、現行ファイルと日時付きの版を直接コピーできます。目的の項目が明らかで、指定時点の一覧が不要な場合に便利です。

大量のファイルを復元する、ある時点の整合した状態を取り出す、版の名前だけで見分けにくいといった場合は O&O AutoBackup を使います。暗号化されたバックアップは、保存オブジェクトを直接コピーしても復号できません。

復元後の確認

文書を開き、写真を表示し、アーカイブをテストして、複数のファイルを確認します。復元データを確認するまではバックアップを保管してください。書き込めなかったファイルは復元ログに記録されます。

使用中の作業フォルダーを置き換えた場合は、確認を終えてから関連アプリを再起動します。OneDrive は、他の端末にも反映したい内容であることを確認してから同期を再開してください。

> **復元ではコピーを作成します**
>
> 復元によってバックアップが消去されることはありません。ただし、既存のフォルダーに書き込むと、そこにあるファイルを置き換えることがあります。判断に迷う場合は新しいフォルダーを使ってください。

暗号化されたバックアップを復元する

暗号化されたバックアップは通常のファイルとして直接開けません。まず設定時のパスワードか、そのバックアップの回復キーでロックを解除します。元の Windows アカウントや PC は必要ありません。

必要なもの

次の3つを用意します。

1. データをすべて含むバックアップ保存先。
2. O&O AutoBackup、またはバックアップと一緒に保存したポータブルアプリ **このバックアップを復旧**。
3. バックアップの**パスワード**か、対応する**回復キー**のいずれか。

保存先の復元アプリを機能限定の復元モードで起動する場合、製品ライセンスは不要です。復元できるのはそのバックアップだけで、新しい PC のバックアップ設定は作成しません。

パスワードで復元する

1. バックアップの保存先を接続するか開きます。
2. O&O AutoBackup を起動して **既存のバックアップを開く** を選ぶか、保存先の **このバックアップを復旧** をダブルクリックします。
3. 必要に応じて、暗号化されたバックアップを選択します。
4. **このバックアップは暗号化されています** でパスワードを入力します。
5. 必要に応じて **この PC に記憶する** を選びます。この PC のスケジュール実行時に毎回入力せずに済みますが、他の PC では引き続きパスワードが必要です。
6. **ロックを解除** を選びます。
7. 復元ポイント、ファイル、復元先を選び、復元を開始します。

パスワードを間違えても保存先の内容は変わりません。キーボード配列と Caps Lock を確認して再度入力します。

回復キーで復元する

パスワードを使用できない場合は次の手順に従います。

1. ロック解除画面を開きます。
2. **パスワードをお忘れですか? 回復キーを使用してください** を展開します。
3. 保存した回復キーを入力するか貼り付けます。英字の大文字・小文字とハイフンの有無は問いません。
4. **ロックを解除** を選び、通常どおり復元する内容を指定します。

回復シートには **保管庫 ID:** が記載されています。暗号化バックアップに表示される ID と照合し、そのバックアップ用のキーであることを確認してください。

回復キーがあれば誰でもそのバックアップを読めます。パスワードと同様に厳重に扱い、バックアップドライブとは別の場所に保管してください。

ファイル名とフォルダー名を隠している場合

ファイル名とフォルダーも隠す を有効にした場合、保存先にはランダムな名前のファイルと暗号化された索引があります。元のファイル名や整理方法も第三者から隠せます。

`_ooab-data` 内のファイルや暗号化された索引を改名、移動、削除しないでください。参照と復元には O&O AutoBackup を使います。一覧が消失または不完全な場合は、ロック解除後に **ファイル一覧を修復** で残っているファイルから再構築できます。ただし、過去の移動や削除の一部は再現できません。

交換した PC に復元する

1. 交換用 PC にバックアップドライブを接続します。
2. ドライブからポータブル復元アプリを起動します。アプリがない場合は O&O AutoBackup をインストールまたはダウンロードし、バックアップフォルダーを指定します。
3. パスワードまたは回復キーでロックを解除します。
4. 新しい PC 上の新規フォルダーに復元します。
5. 残っている古いコピーを削除する前に、代表的な文書、写真、アーカイブを開いて確認します。

パスワードと回復キーの両方を失った場合

暗号化を回避する手段はありません。O&O Software でもリセットや再生成はできません。紛失・盗難時に保存先のデータを守るための仕様であり、パスワードと回復キーを両方失うと、そのバックアップには永久にアクセスできません。

> **どちらの方法も事前に確認する**
>
> 暗号化バックアップの作成後はパスワードで小さなファイルの復元を試し、回復キーが読み取れ、別の場所に保管してあることを確認してください。故障した PC にしかキーがなかった、という事態を防げます。

バックアップを検索する

名前は覚えていても、元のフォルダーやバックアップペアがわからない場合は検索が便利です。

検索を開始する

タイトルバーの検索欄を使うか **Ctrl+F** を押し、完全な名前またはワイルドカードを含むパターンを入力します。PC から現在アクセスできる複数のバックアップをまとめて検索できます。

操作前に、結果ごとのバックアップ、パス、日付、版を確認します。ファイルを開く、格納フォルダーを開く、別の場所にコピーを保存するといった操作ができます。

利用できない保存先

確認できなかったバックアップは検索結果に表示されます。該当する USB ドライブを接続するか、ネットワーク上の保存先へのアクセスを回復し、再検索してください。検索が不完全な場合、結果にないファイルが未バックアップとは限りません。

復元画面内で検索する

対象のバックアップがわかっている場合は復元画面を開き、その中を検索して復元ポイントとファイルを選択します。同じ名前の複数の版を比較する場合に適しています。

検索のヒント

- 拡張子を除くファイル名のうち、特徴的な部分で検索します。
- 特定の種類を探す場合は拡張子を使います。
- 現在の表示にないファイルは、古い復元ポイントでも探してください。
- 現行版を置き換える前に、復元したコピーを別フォルダーに保存します。

ポータブル復元アプリ

O&O AutoBackup は各バックアップと同じ場所に復元アプリを保存できます。バックアップの概要ではこのオプションが既定で有効です。

使用する利点

データと一緒に復元手段も持ち運べます。別の対応 Windows PC で保存先を開き、**このバックアップを復旧** を起動します。元のペア設定を作り直さずに、内容を参照してファイルを復元できます。

故障した PC を交換した後や、インストール済みのアプリをすぐに利用できない場合に特に便利です。

暗号化したバックアップ

ポータブルアプリでも暗号化を解除するには、パスワードか保存済みの回復キーが必要です。回復キーは保存先とは別の場所に保管してください。

復元アプリを使える状態にしておく

O&O AutoBackup の更新時や保存先設定の変更時には、保存先の復元アプリも更新できるようにしてください。セキュリティソフトがポータブル実行ファイルを隔離した場合は、そのバックアップが O&O AutoBackup で作成されたものか確認したうえで、セキュリティソフトの機能で署名済みプログラムを復元してください。

> **通常ファイルの直接コピー**
>
> 暗号化していないバックアップなら、エクスプローラーで個々のファイルを直接コピーすることもできます。復元アプリでは版を考慮した参照と画面に沿った復元ができます。

バックアップペア

ペアには、コピー元と1つの保存先の組み合わせ、およびその間で適用するルールが保存されます。

ホームの **すべてのペア** では、バックアップと同期の一覧、保護対象のファイル数、前回と次回の実行日時、対処が必要なペアを確認できます。行を選択すると操作項目が表示され、ダブルクリックすると編集画面が開きます。実行中のカードを選択すると進行状況が表示されます。このカードには **変更**、**復元**、**キャンセル** は表示されません。中止するには進行状況画面を開いてください。

ペアの操作

- **今すぐバックアップ** または **今すぐ同期** を選ぶと、すぐに処理が始まります。
- **変更** では、コピー元、保存先、スケジュール、フィルターなどを設定できます。
- **復元** は、バックアップペアのデータを復元する画面を開きます。
- **ログ** では、そのペアの操作履歴だけを表示します。
- **削除** で削除されるのはペアの設定です。保存先に書き込み済みのデータは残ります。

ペアの詳細には **コピー元のフォルダーとファイル** と保存先が別々に表示されます。それぞれの横にある **フォルダーを開く** を選ぶと、エクスプローラーで開けます。コピー元が複数ある場合は、開く場所を選択します。

保存先の識別

リムーバブルメディアを使用するペアには、ドライブ文字以外の識別情報も記録されます。Windows がドライブ文字を割り当て直しても、別の機器への誤った書き込みを防げます。保存先の機器を交換した場合は、保存先の選択画面で新しい機器を指定してください。

ファイル一覧を修復

O&O AutoBackup は保存先の状態を記録するため、実行のたびに低速なネットワークやクラウドの保存先をすべて読み直す必要がありません。**ファイル一覧を修復** は、別のアプリで保存先のファイルを変更した場合など、記録を作り直す必要がある場合にのみ使用してください。次のスキャンには通常より時間がかかることがあります。

設定

歯車のボタンを選ぶと、アプリ全体を設定できます。各ペアのスケジュールと保持設定は、ペアの編集画面で変更します。

一般設定とプログラムの配置場所

表示言語と外観、プログラムを常設する場所、スタートメニューやデスクトップのショートカットを設定できます。表示言語の変更を反映するにはアプリが再起動します。処理中の場合、再起動は処理が終わるまで延期されます。

自動起動

現在のユーザーまたはすべてのユーザーを対象に自動起動を設定できます。通知領域に常駐させる、起動時の処理を遅らせる、PC がアイドル状態になるまで待つ、スリープを防ぐ、バッテリー駆動時の動作を指定するといった設定もあります。スケジュールどおり実行するには、O&O AutoBackup が起動している必要があります。

通知

すべての通知、実行と問題、問題のみ、通常の通知なしから選びます。推奨は **問題のみ (推奨)** です。スケジュール実行の前にカウントダウンを表示し、その回だけスキップできるようにも設定できます。

保存先フォルダー

保存先の下にフォルダーを提案する をオンにすると、**バックアップ**、**同期**、**復元** にそれぞれのテンプレートが適用されます。ウィザードの **保存先のパス:** には展開後のパスが表示され、その回の操作に限って変更できます。

テンプレートには複数の階層と次のプレースホルダーを使用できます。

プレースホルダー	展開結果
`{date}`	現在の日付（`yyyyMMdd` 形式）
`{time}`	現在の時刻（`HHmmss` 形式）
`{computer}`	コンピューター名
`{user}`	Windows のユーザー名

サブフォルダーを指定するには、`Backup\{computer}` のようにバックスラッシュで区切ります。Windows のフォルダー名で使用できない文字は `_` に置き換わります。欄を空にするとテンプレートが初期値に戻ります。選んだ保存先をそのまま使うには、**保存先の下にフォルダーを提案する** をオフにしてください。

フォルダー

システムとプログラムのフォルダーは既定で除外されます。キャッシュや一時的なエクスポートファイルなど、どのバックアップにも含めたくないデータは追加で除外できます。

フィルター

ファイルグループは、オフィス文書、画像、音楽、動画などの拡張子をまとめたものです。1つのフォルダーに複数の形式が混在するとき、指定した種類だけをコピーできます。最小サイズと最大サイズを指定して、極端に小さいファイルや大きいファイルを除外することもできます。

ログ

診断ログを設定したり、保存した履歴を消去したりできます。サポートへの報告用に問題を再現する間は詳細ログを有効にし、必要がなくなったら無効にしてログが増え続けるのを防いでください。

ログと通知

ホームでは保護の状況を確認できます。通知は対応が必要な場合などに表示されます。個々の処理の詳細はログに記録されます。

通知レベル

設定 → 通知 で通知の範囲を選びます。

- **ドライブの待機を含むすべて** は、通常の待機状態も通知します。
- **バックアップと問題** は、処理の実行と失敗を通知します。
- **問題のみ (推奨)** は、問題が発生した場合だけ通知します。推奨の初期設定です。
- **通知しない** は通常の通知を表示しません。

別の処理がすでに実行中の場合や、異なる保存先ドライブを接続した場合など、自分が開始した操作を実行できないときは、設定にかかわらず通知されます。

操作ログ

ログ を開くと、情報、警告、エラーを絞り込めます。サポートに問い合わせる際は、次の情報を添えてください。

- O&O AutoBackup と Windows のバージョン
- ペア名と処理に失敗した日時
- コピー元と保存先の種類
- エラーメッセージの全文と対象のパス
- ドライブの再接続や関連アプリの終了後に再試行すると結果が変わるかどうか

ログにはパスやファイル名などの個人情報が含まれる場合があります。公開する前に内容を確認してください。

中断した処理

ドライブが接続されていない場合や、バッテリーまたは従量制課金接続の設定で処理が一時停止した場合は、状況に応じて、再開、そのまま続行、延期を選択できます。延期しても処理済みのファイルは失われません。次に実行条件を満たしたときに残りの変更が反映されます。

ライセンスと更新

ライセンスと試用期間

O&O AutoBackup は市販のソフトウェアです。試用期間中は評価目的で使用できます。期間終了後も使用するには、有効なライセンスが必要です。使用できる PC の台数と利用者数は、購入条件とライセンス条項に従います。

バージョン情報 には、ライセンスの種類、対象バージョン、シリアル番号、該当する場合は有効期限が表示されます。この画面でライセンスの登録と解除もできます。

PC に割り当てられたライセンスを解除する

PC の交換、OS の再インストール、PC の譲渡を行う前に、ライセンスを解除してください。アプリを再起動すると試用状態に戻ります。ライセンスの移行には O&O の使用許諾契約が適用されます。

更新を確認する

O&O AutoBackup は新しいバージョンが利用可能になると通知できます。更新リンクを開き、作業中の内容を保存してください。バックアップや復元が進行中の場合は、処理が完了してからアプリを更新します。

更新後は **バージョン情報** でバージョンを確認してください。既存のペアとバックアップは通常そのまま利用できますが、重要なデータは別の場所にもコピーを保管することをお勧めします。

サポートに問い合わせる

ライセンスの検証、認証台数の上限、ダウンロード、再現できる製品の不具合については、O&O サポート にお問い合わせください。公開の問い合わせには、シリアル番号の全文、バックアップのパスワード、回復キーを記載しないでください。

バックアップ形式

O&O AutoBackup は、1つの大きな圧縮コンテナーではなく、個別に読み出せるファイルとして各版を保存します。**暗号化していないバックアップは、独自のアーカイブや元の PC の O&O AutoBackup に依存せず、通常のファイルとして復元できます。**

バックアップデータは、作成に使った PC よりも長く保管されることがあります。何年も後に重要なのは、当時の形式の便利さより、データを取り出すのに何が必要かです。暗号化していないバックアップなら、最低限の手段で内容にアクセスできます。

暗号化していないバックアップ

ファイルは、O&O AutoBackup が管理するフォルダー構成の中に、通常のファイルとしてコピーされます。特定の時点を選ぶにはアプリを使うのが簡単ですが、現行の個別ファイルはエクスプローラーでも確認、コピーできます。

基本的なアクセスに展開やマウント、独自形式の巨大なアーカイブは不要です。全体をまとめたコンテナーがないため、その破損で無関係なファイルまで一度に読めなくなる事態を避けられます。

圧縮しない理由

O&O AutoBackup は**意図的に圧縮しない設計**です。圧縮で容量を節約できるデータもありますが、次の制約が生じます。

- 復元にアーカイブ形式を解釈できるソフトウェアが必要になります。
- コンテナーの破損が一度に多数のファイルに影響する場合があります。
- ファイルを1つ開くにも、アーカイブの管理情報を先に読み込む場合があります。
- 写真、動画、現在の Office 形式、ダウンロード済みファイルの多くはすでに圧縮されており、容量がほとんど減らないことがあります。
- バックアップと復元に追加の CPU 処理が必要です。

実ファイルと保持する版に見合う容量を用意する代わりに、内容がわかりやすく、長く使える復元方法が得られます。通常ファイルとしての形式を維持したまま、保持条件で履歴の増加を抑えられます。

圧縮と暗号化は別の処理です。圧縮アーカイブは名前や内容が見えることがあります。O&O AutoBackup の暗号化は容量削減ではなく、データを暗号技術で保護するためのものです。

版とメタデータ

O&O AutoBackup は、復元ポイントの再構成と保持条件の適用に必要な情報を記録します。管理対象のバックアップフォルダーを手動で改名、移動、部分削除しないでください。外部から変更すると、ペアのファイル一覧を修復するまで一部が表示されない場合があり、削除した版は永久に失われることがあります。

日時を付けた各版も個別ファイルとして保存されます。複数のファイルを同じ時点の状態で取り出すには、各ファイルの日時を手作業で選ばず、復元画面のタイムラインを使います。

暗号化したバックアップ

暗号化された内容はそのままでは読めません。O&O AutoBackup またはポータブル復元アプリでパスワードか回復キーを使います。名前の非表示も有効にすれば、保存したままの状態ではファイル名やフォルダー名から内容を推測されにくくなります。

暗号化しても各ファイルは個別に保護されます。ただし安全性を保つため、エクスプローラーからの直接復元はできません。復元アプリと回復キーを利用できる状態にしておいてください。

保存先を丸ごとコピーする

保存先全体を移行する場合は、フォルダー構成とメタデータをすべて保持します。元を削除する前に **既存のバックアップを開く** でコピーを開き、使用できることを確認してください。

コピー途中の保存先を検証済みとして扱わないでください。コピーを完了し、暗号化していればロックを解除し、複数の復元ポイントを表示して代表的なファイルを復元してから、元の保存先の使用を終了してください。

プライバシーとセキュリティ

O&O AutoBackup では自分で保存先を選べます。バックアップを O&O のクラウドに保存する必要はありません。

データの経路

ローカルおよびネットワークバックアップでは PC と指定の保存先の間でデータを転送します。WebDAV や S3 では選んだ事業者とネットワークも経由します。データの取り扱い、保管期間、保管地域は各事業者の方針を確認してください。

保存先を保護する

- 他人が触れる可能性のあるリムーバブルストレージやリモートストレージでは、O&O AutoBackup の暗号化を有効にしてください。
- 他で使っていないパスワードを使用し、回復キーは別の場所に保管します。
- 共有フォルダーやバケットのアクセス権は、必要なアカウントに限定します。
- 少なくとも1つのリムーバブルコピーは、更新時以外は取り外しておきます。
- 定期的に復元を試します。

ログとサポート

操作ログには、ローカルパス、ファイル名、サーバーアドレス、障害の詳細が含まれることがあります。共有前に内容を確認し、適切なサポート窓口にのみ送ってください。O&O サポートにバックアップのパスワードや回復キーを知らせる必要はありません。

暗号化で保護できる範囲

暗号化は保存中のデータを保護します。コピー元のマルウェアの除去や、ロックされていない Windows セッションの保護は行いません。接続中の保存先は、ユーザーの権限で動くマルウェアの影響を受ける可能性があります。O&O AutoBackup に加えて、オフラインまたは改変不能なコピー、Windows のセキュリティ更新、安全なアカウント管理を併用してください。

用語集

用語	意味
バックアップペア	1つ以上のコピー元フォルダー、1つの保存先、およびスケジュール、保持、フィルター、セキュリティの各設定をまとめたもの。単に「ペア」とも呼びます。
未実行分の実行	予定を逃したり延期したりした処理を、ドライブの再接続などで実行条件が整い次第、開始すること。
競合	前回の同期後、同じファイルが両側で変更された状態。**詳細設定** の競合ルールによって扱いが決まります。
継続モード	コピー元の変更を監視し、変更が短時間途切れたところで処理を始めるスケジュール。
コピー	新規・変更ファイルを左から右にコピーし、右にしかないファイルは削除しない同期モード。
保存先	保護用のコピーを受け取るストレージ。別の内蔵ディスク、USB ドライブ、ネットワーク共有、WebDAV サーバー、S3 互換ストレージなど。
保存先フォルダー	選択した保存先の下にテンプレートから提案されるサブフォルダー（例：`Backup`）。ウィザードの **保存先のパス:** に表示されます。
暗号化	パスワードから導出した鍵で各ファイルを AES-256-GCM 暗号化するオプション。バックアップを実行した後は変更できません。
ファイルグループ	オフィス文書、画像、音楽、動画などの拡張子をまとめ、コピー元から特定の種類だけを取り込むためのフィルター。
左と右	ペアを構成する2つの場所。一方向モードでは左がコピー元、右が保存先です。
履歴の自動整理	直近1時間の全版を残し、古くなるにつれて1時間に1版、1日に1版、1週間に1版へと絞る保持方法。各ファイルの最新版は常に残ります。
マージ	新規・変更ファイルを双方向にコピーし、両方のフォルダーに双方のファイルをそろえるモード。削除は伝播しません。
ミラー	削除も含め、右フォルダーを左フォルダーの現在の内容と一致させるモード。
名前の非表示	**ファイル名とフォルダーも隠す** を有効にすると、保存ファイルにはランダムな名前を付け、フォルダー構成は暗号化された索引に記録します。
オフラインコピー	バックアップ後に取り外した USB ドライブのように、PC やクラウドアカウントから常時アクセスできないコピー。
オンライン専用ファイル	OneDrive のファイル オンデマンドで、内容が PC に保存されていないファイル。バックアップの前にダウンロードする必要があります。

用語	意味
ポータブル復元アプリ	バックアップと一緒に保存される **このバックアップを復旧**。別の PC でもライセンスなしでそのバックアップを復元できます。
プレビュー	同期で変更を加える前に、新規作成、更新、移動、削除、スキップの予定を示す一覧。
回復キー	暗号化を有効にしたときに生成されるキー。パスワードを忘れてもロックを解除できます。バックアップとは別に保管してください。
ファイル一覧を修復	保存先のファイルがアプリの外で変更された後などに、保存先の状態を読み直して記録を再構築する操作。
復元ポイント	復元画面で選択できる特定の時点。その時点に存在したファイルを表示するため、後から削除されたファイルも含まれることがあります。
保持条件	以前の版をいつまで残すかを決める条件。履歴の自動整理、必要に応じて指定する期間や版数の上限、保存先の空き容量が関係します。
コピー元	保護したいファイルがあるフォルダー。
同期	コピー、マージ、ミラー、双方向の各モードで2つのフォルダーの内容をそろえること。バージョン履歴は残らず、バックアップの代わりにはなりません。
双方向	新規作成、編集、名前変更、削除を、どちらの側からも相手側に反映するモード。
保管庫 ID	暗号化されたバックアップの識別子。回復シートにも記載され、回復キーが該当のバックアップ用かを確認できます。
版	ファイルが新版に置き換わった際、日時付きの名前で別に保存される置き換え前のコピー。
バージョン履歴	バックアップに残っている各ファイルの版の集合。以前の状態や削除済みファイルを復元できます。

トラブルシューティング

症状ごとに主な原因と対処方法をまとめました。該当する項目がない場合や解決しない場合は、O&O のサポートと関連製品 を参照してください。

バックアップドライブが見つからない

原因： 登録したドライブが接続されていないか、Windows がまだマウントしていません。O&O AutoBackup はドライブ文字だけでなく、ボリュームの識別情報を確認します。

対処方法

1. 登録したドライブを接続し、Windows がマウントするまで待ちます。
2. 実際に保存先の機器を変更した場合だけ **別の保存先を選択** を使います。

使用中のファイルがスキップされた

原因： 他のプログラムがファイルを使用中です。例として、メールストア、ブラウザーデータ、データベース、仮想マシンがあります。

対処方法

1. ファイルを使用しているプログラムを閉じます。
2. ペアを再度実行してください。次の実行でもスキップしたファイルが再試行されます。

保存先の空き容量がない

原因： 保護対象とその版の履歴に必要な容量が、保存先の容量を超えています。自動整理では削除可能な古い復元ポイントを削除しますが、各ファイルの最新版は残します。

対処方法： 空き容量を増やす、保持期間を短くする、より大きな保存先に移す、のいずれかを行います。

スケジュールしたバックアップが実行されない

原因： 予定時刻にアプリが起動していなかったか、バッテリー、アイドル待機、従量制課金接続、起動遅延、ドライブ未接続などの条件で延期されました。通常はホームに理由が表示されます。

対処方法

1. **設定 → 自動起動** を確認します。Windows と同時に起動し、通知領域に常駐するようにしてください。
2. ホームの表示に従い、ドライブを接続するなどして待機の原因を取り除きます。

ネットワークやクラウド上の保存先に接続できない

原因： アドレス、接続、認証情報、証明書、サービスのいずれかに問題があります。無人実行で使うネットワーク共有には、O&O AutoBackup を実行する Windows アカウントからアクセスできる必要があります。

対処方法

1. URL または UNC パス、インターネットまたは LAN の接続、認証情報、証明書の信頼状態、サービスの稼働状況を確認します。
2. 無人で使う共有フォルダーは、アプリを実行するのと同じ Windows アカウントでアクセスを確認します。
3. **保存先を追加 → NAS / ネットワーク共有** から追加した NAS または SMB 共有では、保存先を編集し、保存した認証情報で接続をテストします。アプリは共有に自動再接続します。共有にアクセスできるようになると、存在しないフォルダーも作成されます。

暗号化されたバックアップを開けない

原因： パスワードが正しくないか、不明になっています。解除用の裏口はなく、パスワードも回復キーもないと復号できません。

対処方法

1. Caps Lock の状態を確認して、パスワードを再入力します。
2. パスワードを忘れた場合は、保存した回復キーを使います。

バックアップの表示が古い

原因： 保存先のファイルが O&O AutoBackup の外で変更されました。

対処方法： ペアを編集して **ファイル一覧を修復** を実行します。保存先全体を読み直すため、通常より時間がかかります。

サポートに伝える情報を集める

製品バージョン、ペア、発生日時、メッセージの全文、再現手順を記録します。診断ログは再現に必要な間だけ有効にし、内容を確認して非公開の問い合わせに添付してください。O&O のサポートと関連製品 に必要事項をまとめています。

よくある質問

O&O AutoBackupは無料ですか？

いいえ。有償ソフトウェアです。体験期間は試用できますが、継続利用には有効なライセンスが必要です。

Windows全体のイメージを作成できますか？

いいえ。選択したファイルとフォルダーを保護する製品です。Windows、インストール済みアプリ、パーティション、起動情報のイメージは作成しません。システム全体にはO&O DiskImage、変化の多い個人データにはO&O AutoBackupを使用します。O&O AutoBackup、O&O DiskImage、OneDriveの違い を参照してください。

O&O AutoBackupとO&O DiskImageを併用する利点は？

O&O DiskImageで故障したPCを起動可能な状態に戻した後、イメージ作成後の新しい個人ファイルはO&O AutoBackupから復元できます。例として、月1回のシステムイメージと毎時のファイルバックアップを組み合わせ、重要度や変更頻度に合わせます。

OneDriveだけでバックアップになりますか？

OneDriveは作業中のデータを同期するため、誤削除や誤編集も反映します。サービス側の復元機能は同じアカウントとサービスに依存します。O&O AutoBackupは別管理のストレージに履歴付きの独立したコピーを作成します。OneDriveのオフラインバックアップ を参照してください。

O&O AutoBackupなしでバックアップを開けますか？

暗号化していなければ通常のファイルなのでエクスプローラーで開けます。過去の版を選ぶにはO&O AutoBackupまたは保存先のポータブル復元アプリを使用します。暗号化した場合はいずれかのアプリと、パスワードまたは回復キーが必要です。

圧縮しないのはなぜですか？

独自の圧縮コンテナーにまとめないため、暗号化していない現行ファイルは直接コピーでき、アーカイブ1つの破損で中の無関係なファイルすべてが読めなくなることもありません。写真、動画、Office文書、ダウンロードデータの多くはすでに圧縮されています。バックアップ形式 を参照してください。

保存先はどこが適していますか？

元とは異なる物理デバイスやリモートシステムを選びます。USBドライブ、別ディスク、NAS、WebDAV、S3互換ストレージを利用できます。取り替えの利かないデータには別のオフラインコピーも残します。

USBドライブを取り外すとどうなりますか？

接続を待ちます。登録したドライブを再接続すると、接続時の実行や未処理分の実行で自動再開できます。ドライブ文字だけでなくデバイスの識別情報を照合します。

初回のバックアップを中断できますか？

はい。一時停止またはキャンセルできます。完了したファイルは残り、次回は再スキャンして残りを処理します。

開いているファイルがスキップされた理由は？

別のアプリが排他的に使用している可能性があります。アプリを閉じて再実行します。保護済みと誤解しないよう、該当ファイルはレポートされます。

何バージョン保持しますか？

既定では直近1時間はすべて、24時間は毎時、1か月は毎日、それより前は毎週1つを保持します。履歴はファイル単位なので、変更のない実行では版は増えません。月単位の段階はなく、週次の履歴が続きます。任意の上限と空き容量によって実際の保持数が決まります。バージョン履歴と保持期間 を参照してください。

ペアを削除するとバックアップファイルも消えますか？

いいえ。ペアと復元情報は画面から消えますが、保存先のファイルは残ります。不要と確認できた場合だけ別途削除してください。

暗号化パスワードを忘れた場合は？

設定時に発行した回復キーを使用します。保管庫 IDが一致することを確認して **パスワードをお忘れですか? 回復キーを使用してください** を開き、解除します。両方とも失うとO&Oサポートでも復号できません。暗号化バックアップの復元 を参照してください。

スケジュールどおりに実行されなかった理由は？

Windowsとともに起動し、通知領域で動作している必要があります。ドライブ、AC電源、従量制でない接続、アイドル状態を待っている場合もあります。理由はホームに表示されます。

バックアップの代わりにフォルダーを同期できますか？

はい。バックアップ、コピー、マージ、ミラー、双方向の方式があります。方向、履歴、削除を反映するかどうかが異なります。作業フォルダーの同期は履歴付きバックアップの代わりになりません。各同期モードの詳細 を参照してください。

ライセンスを別のPCに移すには？

旧PCの **バージョン情報** でライセンスを解放し、使用許諾契約に従って新しいPCで認証します。

サポートはどこに問い合わせればよいですか？

O&Oサポート に、製品バージョン、正確なエラー、該当ペア、必要に応じて内容を確認した診断ログをお送りください。パスワードや回復キーは送らないでください。

O&O のサポートと関連製品

O&O AutoBackup の質問や不具合の相談先、ライセンスと更新の説明、その他の O&O 製品を案内します。

サポート窓口

- **本書：** トラブルシューティング に主な症状、原因と対処方法があり、よくある質問 では代表的な疑問に回答しています。
- **O&O サポート：** 詳しい案内と問い合わせフォームは O&O Software のサポートページ にあります。
- **製品ページ：** O&O Software の O&O AutoBackup をご覧ください。

問い合わせを準備する

次の情報を用意してください。

- **バージョン情報** に表示される製品バージョンと Windows のバージョン。
- 対象のペア名と処理に失敗した日時。
- コピー元と保存先の種類（USB ドライブ、NAS、WebDAV、S3 など）。
- エラーメッセージの全文と対象のパス。
- ドライブを再接続する、または関連アプリを終了してから再試行すると結果が変わるかどうか。
- 再現可能な場合は診断ログ。**設定 → ログ** で詳細ログを有効にし、一度再現してから無効にします。ログと通知 を参照してください。

ログにはパスやファイル名などの個人情報が含まれることがあるため、送信前に確認してください。O&O サポートにパスワードや回復キーを知らせる必要はありません。紛失した場合、サポートでも再作成できません。

ライセンスと更新

O&O AutoBackup は試用期間のある市販ソフトウェアです。ライセンス、PC の変更前の解除、更新の確認は ライセンスと更新 を参照してください。

その他の O&O 製品

O&O AutoBackup はファイルを保護します。起動可能な Windows イメージは作成しないため、PC 全体の復旧には O&O DiskImage を併用してください。O&O AutoBackup、O&O DiskImage、OneDrive の使い分け に詳細があります。O&O Software は復元、ストレージ最適化、Windows 管理のツールも提供しています。

製品	用途
O&O DiskImage	ドライブとシステム全体のバックアップおよび復旧
O&O Defrag	PC とサーバーのストレージ最適化
O&O DiskRecovery	削除ファイルや破損したファイルシステムからのデータ復元
O&O SafeErase	ファイルと空き領域の復元不能な完全消去
O&O ShutUp10	Windows のプライバシー設定の管理
O&O Syspectr	PC・サーバーのリモート監視と管理

全製品は oo-software.com/en/products で確認できます。